昆虫類　＜コウチュウ目　コメツキムシ科＞　　愛知県：準絶滅危惧　（国：リスト外）
INSECTA　＜COLEOPTERA　ELATERIDAE＞　　AICHI：NT　（JAPAN：－）

サトヤマシモフリコメツキ　*Actenicerus kidonoi* Ôhira

【選定理由】

本属の種は愛知県に 7 種分布しているが、本種は 2006 年に愛知県原産の新種として記載された大形種である。本種の生息環境は里山周辺にあるので、人為作用による土地整備などによって生息地が失われる可能性が高い。

♂
岡崎市鳥川町, 2007 年 5 月 15 日, 大平仁夫 採集

【形　態】

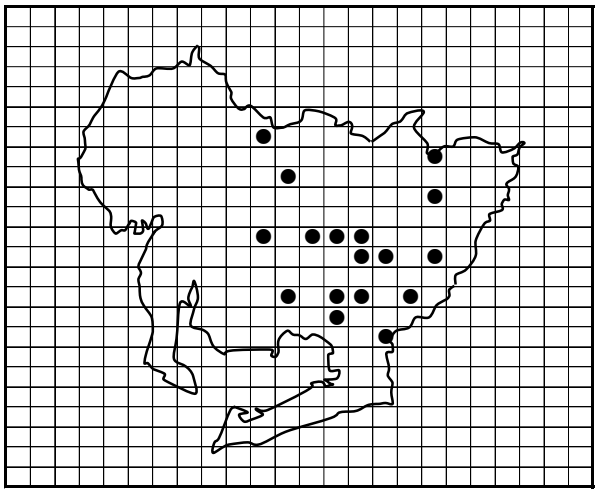
体長は 17～19mm。体は船形でやや偏平状。黒色で鈍い真鍮色の金属光沢を有し、体背面は灰黄色と褐色毛を混生し、上翅は体毛によるまだら状の斑紋を生じる。触角は黒色、肢は黄褐色～暗黄褐色で、脛節とふ節は黄褐色～暗黄褐色を呈する。また、前胸背板と上翅の側縁部は暗褐色を呈すので、一見してやや褐色をおびた外観を呈する（Ôhira, 2006）。

【分布の概要】

【県内の分布】

原記載で扱われた完模式標本は岡崎市桑原町産であるが、新城市、豊川市、豊橋市など主として三河地方を中心とする里山周辺に分布が知られている。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

成虫は休耕田を含む湿潤地のある里山周辺で見出されているが、幼虫もその周辺の土壌中に生息すると思われる。成虫は 4 月から 5 月にかけて現れ、周辺の樹木の葉上やフジの花やコナラの新芽などに飛来している（大平, 2008）。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在は主として里山の谷間の湿潤地に点々と小集団で発生しているが、このような場所は開発や土地整備などの影響を受けやすいため、生息適地が減少している。

【保全上の留意点】

本種は人里周辺の里山の湿潤地に分布し、幼虫もその土壌中に生息しているため、土地整備などの影響を受けやすい。しがって、ため池～湿地～水田~周辺の雑木林などの自然環境を一体化して、そこの生物多様性を高めることが必要である。

【引用文献】

Ôhira, H., 2006. New or Little-known Elateridae from Japan, XLIX. Elytra, Tokyo, 34: 337-342.
大平仁夫, 2008. 三河地方が原産のサトヤマシモフリコメツキについて. 鳳来寺山自然科学博物館館報, (37): 1-2.

（2009 年版を一部修正）